

(様式4)

平成21年3月26日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立高岡工芸高等学校
校長 林 恵 彰

平成20年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

平成20年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本年度の7つの重点課題の内、教科指導の充実では、昨年に引き続き、互見授業の実施と生徒による授業評価の実施からの授業改善への取り組みを行い、生徒の学習意欲の向上を図った。結果、教諭全員が年1回以上の互見授業を、また生徒による授業評価では45名、92%の職員が実施するなど、授業の改善への取り組みが行われた。ただ一部の互見授業が3学期に実施され、早期での授業の改善に繋がらなかった面も見られたことから、次年度は1・2学期に互見授業週間を設け、早期の改善に繋げたい。

生徒指導の充実では、朝のあいさつ運動などをとおして、年間総遅刻回数の減少を目標に取り組んだ。厳格な遅刻指導などの結果、目標の1割減は達成したが、総数510回という決して少なくない回数を更に減少させるため、次年度は学期毎の無遅刻週間の設置など、遅刻防止に向けての具体的な運動の実施により、一層の減少に努めたい。

特別活動の活性化では、部活動内容の満足度と学校行事の充実感に対するアンケートを実施し、マナー化や形骸化しつつある部活動や学校行事の内容の見直し、改善を行った結果、部活動や学校行事への満足感が、共に80%を超える高い値が得られた。特に本校の最大行事である「尚美展」では89.3%の生徒が十分満足したと答えている。

次年度以降も部活動の活性化と学校行事への積極的な取り組みへの意識の高揚を図り、学習と部活動、奉仕・体験活動などの特別活動を両立させるよう努めたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

現在本校では、平成22年度の新高校開校に向けて、総合的な工業高校としての「ものづくりの中核校」「地域のものづくりの拠点」をめざした学校課題と教育目標の具体化に向けた教育方針や教育課程の編成、計画などの検討を進めている。その根幹となる学習意欲の向上、生徒指導・進路指導の充実などに向けて、より実践的な取り組みを展開し、更なる充実に努めたい。

学習意欲の向上では、互見授業の実施や参観、生徒による授業の評価をさらに積極的に行い、よりわかる授業、学習意欲を高める授業など、授業の改善や質の向上に努める。また、高校生ものづくり人材育成事業との連携によるインターンシップやデュアルシステムの実施など企業、地域との連携をさらに深め、早期からの望ましい勤労観・職業観の育成に努める。

さらに、学校と家庭との情報の共有を図り、朝寝坊や怠惰による遅刻の防止など高校生としての節度ある行動・態度がとれる指導をとおして人格形成に努めさせるなど、いずれも生徒の実態に応じた目標設定に努め、新しい学校に相応しい魅力ある学校づくりに努めたい。